

シックハウス症候群・化学物質過敏症の基礎知識

1 シックハウス症候群の原因

建材、施工材、家具から発生する化学物質が原因となります。
健康住宅研究会が選定した優先取組物質

1.ホルムアルデヒド
発ガン性の疑い
刺激臭、目がチカチカ
目や喉の痛み
アレルギー症状

2.トルエン
倦怠感
知覚異常
吐き気

3.キシレン
倦怠感
知覚異常
吐き気

1.木材保存材(現場施工用) 2.防蟻剤
有機リン系やピレスロイド系殺虫剤を含む場合

倦怠感、頭痛、頭痛、くしゃみ、鼻炎
めまい、悪心、嘔吐

3.可塑剤
目や喉の痛み
気道刺激
環境ホルモンの
疑いあり

新築等の後にその建物に居住し、これらの化学物質に汚染された空気を吸うことにより症状があらわれますが、居住者全員が同様な症状をあらわすわけではなく、個人差があります。また、それまでの化学物質の暴露状態や、体質にも左右されます。

2 シックハウス症候群の原因物質が含まれる建築材料

接着剤... ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、可塑剤
ビニル壁紙... ホルムアルデヒド、可塑剤
塗料... トルエン、キシレン
畳... 有機リン系殺虫剤
防蟻剤... 有機リン系・ピレスロイド系殺虫剤
木質複合フローリング... ホルムアルデヒド
合板、パーティクルボード、木質繊維板... ホルムアルデヒド
木材保存剤(現場施工用)... 有機リン系・ピレスロイド系殺虫剤
断熱材(グラスウール)... ホルムアルデヒド

3 シックハウス症候群の症状(米国胸部医学会のシックビルディング症候群の診断基準)

目の刺激症状、鼻の刺激症状、喉の刺激症状、胸部の圧迫感、咳、頭痛、眠気、
たばこの煙に反応、めまい、集中力・記憶力の低下、疲労のしやすさ

4 シックハウス症候群と化学物質過敏症の違い

症状は似ているところがあるが、原因が住居に由来する場合はシックハウス症候群であり、原因となる住居を離れば、症状が消えるが、化学物質過敏症はその住居から離れても、その後様々な化学物質に敏感に反応するようになる。はじめがシックハウス症候群で発症し、その後化学物質過敏症に移行する場合もある。

5 化学物質過敏症の原因物質

原因物質は様々であり、住居に限らず環境の空気質の汚染も原因となる。

原因物質	生物：毛、ダニ、カビ、花粉 食物：酵母、卵、牛乳、小麦、豆、肉、魚、食品添加物、防腐剤、着色剤 衣料：布、絨毯、クリーニング、洗剤 化学物質：有機溶剤、殺虫剤、ホルマリン、農薬、除草剤
------	---

原因物質によって必ず同じ症状が出るわけではなく、症状の強さも個人差が大きく、患者の体質によって決まる。

6 化学物質過敏症の症状

自律神経系を中心とした多彩な症状が現れる。	
自律神経症状	：発汗異常、手足の冷え、疲れやすい、めまい
神経・精神症状	：不眠などの睡眠障害、不安感、うつ状態（不定愁訴） 頭痛、記憶力低下、集中力低下、意欲の低下、運動障害 四肢末端の知覚生涯、筋肉痛
気道症状	：のど、鼻の痛み、乾き感、気道の閉塞感、かぜを引きやすい
消化器症状	：下痢、ときに便秘、悪心
感覚器症状	：目の刺激感、目の疲れ、ピントが合わない 鼻の刺激、味覚異常、音に敏感になる、鼻血
循環器症状	：心悸亢進、不整脈、胸部痛、胸壁痛
免疫症状	：皮膚炎、ぜん息、自己免疫疾患、皮下出血
泌尿生殖器・婦人科系症状	：生理不順、性器不正出血、月経前困難症、頻尿、排尿困難

個人によって感受性の差がある。また、化学物質が体内に入ってもどこまで発病せずに耐えるか、総負荷量（トータルボディロード）の問題もある。

総負荷量の違いは、よくコーヒーカップなどに例えられるが、もともとの器の大きさが違えば、同じ量の化学物質に出会っても、容量に違いがあるので、症状が現れる人と現れない人が出てくる。

7 化学物質過敏症の診断

診断基準 (Arch Environ Health 1999)

1. 症状は化学物質の暴露により再現する
2. 慢性の経過をたどる
3. 低レベルの暴露で症状が再現する
4. 原因物質の除去で症状が改善または軽快する(全快・完治はない)
5. 科学的に無関係な多種類の物質に反応する

石川先生の基準 (国立公衆衛生院「住まいと健康」北里大学西本講師の講義ノートより)

A 主症状

- 1 持続あるいは、反復する頭痛
- 2 筋肉痛あるいは筋肉の不快感
- 3 持続する倦怠感、疲労感

B 副症状

- 1 喉頭痛
- 2 微熱
- 3 下痢、腹痛、便秘
- 4 羞明
- 5 集中力・思考力の低下、健忘
- 6 興奮、精神の不安定、不眠
- 7 皮膚のかゆみ、感覚異常
- 8 月経過多などの異常

C 検査所見

- 1 副交感刺激型などの瞳孔異常 <自律神経の異常の判定>
- 2 空間周波数特性検査異常 <中枢神経を含めた視覚検査>
- 3 眼球の追従運動機能低下 <眼球の運動中枢の障害>
- 4 脳の画像検査(SPECT) <脳の血流量の変化>

D 鑑別を要する疾患

自律神経失調症 神経症 うつ病 更年期障害

石川哲先生

北里大学名誉教授
北里研究所病院臨床環境医学
センター長

日本で化学物質過敏症に
いち早く取組み初めて科学的
な診断方法を確立するなど、
この問題の第一人者。
専門は眼科。

8 シックハウス症候群・化学物質過敏症の専門外来(クリーンルーム)を有する病院

(社)北里研究所・北里病院・臨床環境医学センター・化学物質過敏症特殊外来
東京労災病院・臨床環境研究センター・シックハウス科
国立相模原病院・アレルギー科
国立療養所・南岡山病院・アレルギー科
国立療養所・南福岡病院・呼吸器科